登録団体活動紹介

名取元気コミュニティ応援団

個々の思いを認める伴走者に

「名取元気コミュニティ応援団」は、東日本大震災直後、地域コミュニティ再生に協力する活動を行うことを目的に、尚絅学院大学エクステンションセンターで行っていた市民ボランティア活動参加メンバーによって、2016 年５月に組織されました。

設立当時から、被災者支援団体として大切にしてきたことは、支援団体が学習会やイベント活動への参加を無理強いするのではなく、常に度量の広さ、深さを持ち合わせ、個々の思いを認める伴走者、伴奏者として支援することでした。住民主体の活動となるよう、一歩引いた支援を続けてきたことが、被災された方達の自立に向けた歩みを確実なものとしました。

震災から 11 年経過して、共にコミュニティの「輪」と「絆」を育み、人と人を繋ぐということに試行錯誤する中で、「言葉ではない気持ちの奥底で繋がっている地域社会と、多様性を認める社会でありたい」と代表の庄司則雄さんは話します。

これまでに被災者支援活動を通じて培った貴重な経験を糧に、これからも「名取元気コミュニティ応援団」は互いに寄り添い支え合う支援活動を行っていきます。

〖 閖上西団地縁側カフェ 〗

SDGｓでコミュニティ再生

現在、名取元気コミュニティ応援団の新しい支援活動が始まっています。庄司代表の知人でもある尚絅学院大学就職専門監をしている中村節子さんが、学生の就職先として、とある企業を訪問した際、工場に沢山の反物が積まれており、古くなった生地は需要がないので新品のまま廃棄されることを知ります。咄嗟にひらめいた中村さんは、５色の反物を頂戴する許可を得ました。

実は、中村さんは 2030 SDGS カードゲーム公認ファシリテーターとして講演やワークショップ、学習支援も行っている人物です。

この“生地”をきっかけに、庄司代表と中村さんは、有効活用（SDGs12）するための手作りエプロン製作を考案し、完成したエプロンを名取市内や仙台市、多賀城市の幼稚園、保育所で働く職員に無料で配布する活動に発展させました。

今後は、制作ボランティアをスタッフとして迎えより多くの方々を巻き込み、SDGs を学びながら、活動の拡大を考えています。スタッフ同士、お茶飲みをしながら集まれる居場所づくりと、何より楽しんで作業をすることでコミュニティが生まれ、完成品の配布や販売は社会参加にもなり、さらには、コミュニティの活性化に向けたまちづくりにも繋がります。家族でお揃いのエプロンを着てもらえたら家族の再生にも一役買える?!となればこんなに嬉しいことはないと笑顔がこぼれます。この活動の可能性は、海外へも進出しています。

手作りエプロンは海外へ

中村さんによって、ヨガの聖地インドの先生のもとへ届けられた手作りエプロンは「型紙を作って欲しい！」と大変好評を得ました。

今後、この型紙をきっかけに現地の人達によって、持続可能な消費と生産のシステムが確保されれば、インドにおいての SDGs12 の取り組みに貢献することができ嬉しいと庄司代表は熱く語ってくださいました。

問合先　名取元気コミュニティ応援団
代表者　：庄司　則雄
Mail　：shoji840@blue.plala.or.jp